

知っていますか？
この言葉

名前のない家事

この言葉は説明しなくても想像がつく方は多いのではないのでしょうか。昨年11月に放送されたNHKの「あさイチ」という番組で取り上げられ認知されました。炊事・洗濯・掃除などはわかりやすい家事ですが、その他にも目立たない、存在に気付かれない、地味な家事がたくさんあります。快適な生活には家事が必須ですが、認識の違いもあり、主に家事を担う人は、やってもやっても終わらないことにイライラしてしまう場合も多いようですが、その原因の一つが、この「名前のない家事」です。



「洗濯」を例にとると、洗濯物の仕分け、ネットに入れることから始まり、取り込み、たたむまで様々な小さなことで成り立っています。その前に汚れたカバーやシーツなどを外し、汚れたタオルを取り換える、洗剤量をチェックして買い足す

など「名もなき家事」もあります。

常に快適な生活をするためには、消耗品や食品などの在庫を管理して、必要なものを買って補充、機械類のフィルター掃除、ゴミを捨てる前の処理などなど挙げたらきりがありません。なかでも様々な片付けは大変なことです。たまに家事を頼まれた人は、「名前のない家事」に気づきません。そのため家事を担う人は、頼むより自分でやる方が簡単などと思い、常に同じ人がやらなくてはいけなくなり、ストレスがたまるようです。置く場所を子ども目線にするとか、細かいことに気づいてもらうため、パートナーに一日家事を頼むなど分かってもらう工夫が必要です。

今の日本では、高齢者とみられる世帯を除くと、夫婦の約61%が共働きといわれています。それでも家事の多くを妻が担当している家庭も少なくないようです。それぞれの家庭で工夫をして、男女共同参画で「名前のない家事」も協力してやりたいものですね。

夫婦の懲りない日々



これからの作業服

女性の活躍は、建設現場にも広がっています。しかし、今まで男性中心だった現場には女性用の作業服はなく、女性たちに不評でした。

女性社員が増加し、現場監督にも女性が占める割合も多くなった今、会社側も女性の意見を取り入れ、女性用の作業服を作るようになりました。同時に、ヘルメットや安全靴なども女性用に改良されるようになったそうです。

先日、全国建設業協同組合が大手服飾学園と連携し、新しいデザインを試作として公開しました。格好いい作業服で若い人にアピールするのが狙いだそうです。今後、人手不足などに対応するためにも、女性や若者の力が必要になってきます。皆が働きやすく、また働く意欲の向上に、見た目も大切です。体型に合わせることで、安全にもつながります。もっと女性や若者が、多様な仕事につけるよう、各業界も受け入れ態勢を、今まで以上に整備してくれることを願っています。

